

高活ビス“ナノコーポ”のすすめ

主催●シニアセカンドキャリア推進協会(SSC) 日時●2013年2月14日(木)13:30～16:30 会場●女性就業支援センター

開催概要

急速に進む超高齢化社会において、一人でも多くの高齢者に対し「働く場」と「生きがい」を提供するための就労に関するシンポジウムも第4回を迎えることになりました。私たちは、リスクの小さな小規模ビジネスである“ナノコーポ”という新たな視点で高齢者の起業という働き方とビジネスモデルを提案いたしました。

開会のご挨拶



高齢者活躍支援協議会の渡辺利夫会長が登壇。まず、超高齢化社会を迎えるにあたり、高齢者のあるべき姿を上田研二の著作(「私はやった、あなたもできる! 定年後に働く、うれしい毎日」(WAVE 出版))を交え語りました。高齢者ひとりひとりの意識改革について言及し、定年後の生活において「与えられるものを楽しむだけの人生ではなく、自身が与えることのできるものは与え、社会に貢献する」姿勢の重要性を示唆。高齢者ビジネスのモデル提案を通じて、高齢化社会にありながらも、より良い社会を形成するために、微力ながら貢献に尽力したい、と述べ開会の挨拶としました。

第一部 基調講演

「ナノコーポ・退職後をいきいきと過ごすための半働半遊のすすめ」

村田裕之氏 村田アソシエイツ代表、東北大学特任教授、エイジング社会研究センター代表理事

【なぜ、退職後に働いたほうがよいのか?】

冒頭では「ナノコーポ」について語る導入として、そもそも「なぜ、退職後に働いたほうがよいのか?」を、老後の三大不安である「健康不安・経済不安・孤独不安」の解消につながると説明。つまり、仕事を始めると、日々の生活にリズム感が出るとともに、外出する機会(=健康不足の解消)・人とのコミュニケーションの増加が見込め(=孤独不安の解消)、多少なりとも年金以外の収入が得られる(=経済不安の解消)と解説されました。

【スマートエイジングの実現】

続いて「かしこい年のとり方」として、村田教授の提唱する「スマートエイジング」について解説されました。本来、人間の成長・発達そのものである「エイジング」という言葉が誤った認識で使用されていることを指摘。スマートエイジングに必要な4大要素(認知刺激・運動・栄養・社会性)をバランスよく生活に取り入れるためにも、「退職後に仕事をする事」は有効であると説明。実際に村田教授が東北大学で行っている取り組み(「スマートエイジング・カレッジ」)をはじめ、民間でのシニアビジネスの成功例を挙げ、その有効性を指摘しました。



民間での成功例

- いろいろ(料理のつまとして使われる葉類の販売)
- 小川の庄(郷土料理「おやき」の販売)
- クラブツーリズム(シニアビジネス)



シニアセカンドキャリア
推進協会 (SSC)

Senior Second Career Promoting Association

【では、どのようなスタイルで仕事を？～ナノコーポのすすめ】

「退職後も働く…といってもさまざまなスタイルがあります」とした上で、自分のキャリアを活かして自分のやりたいことを仕事にして収入を得るスタイル「ナノコーポ」を紹介。ナノコーポとは、米国で生まれた言葉で「nano-corporation」の略であり、最小単位の会社(つまり自分ひとりの会社)を起業して働くビジネススタイルのことであると説明。まずは、その特長・メリット・デメリットを挙げていただきました。

ナノコーポの特長

- これまでの自営業と違い、家業を継ぐのではなく前職の経験を活かした事業が多いこと。
- 独自の世界観を持って展開している起業者が多いこと。

8つのメリット

- 自分がボスなので、上司から命令されることがない
- すべて自分で意思決定ができる
- 会社での人間関係に惑わされずに、仕事に専念できる
- 事業の全体像がわかる、コスト感覚が身につく
- 家族と向き合う時間が増える
- ラッシュアワーの通勤が減る
- 稼いだけ収入が増える
- 自分の商品価値を上げることに敏感になる

8つのデメリット

- すべて自分で意思決定しなくてはならない
- 毎月の給料が一定ではない
- 仕事と家庭との区別をつけ辛い
- 病気になっても代わりがいない
- 会社の知名度が低い
- 組織的な情報提供・人脈が減る
- 同僚との付き合いがなくなる
- 福利厚生がほとんどない

【ナノコーポを成功へと導く 10の秘訣】

メリットとデメリットを紹介した上で、最後にナノコーポを成功させるための10カ条を提唱。

- その1 ●オフィスは自宅と都市部に持つ
(レンタルオフィスの活用・仕事と家庭のメリハリがつく)
- その2 ●自分をブランディングする(独自の世界を作る)
- その3 ●情報発信に注力する(情報発信＝営業)
- その4 ●最先端のITツールを最大限に活用する
(事業のレバレッジ(てこ)になる)
- その5 ●他人に過度に頼らない・唯我独尊にもならない
(責任を持った自立的なビジネスパーソンに)
- その6 ●階層ではなく共感でつながる
(前職の肩書きではなく、今できることが自分の価値に)
- その7 ●いかなる人間関係も大切に(ビジネスチャンスを逃さないために)
- その8 ●家族(配偶者)との共働を目指す
- その9 ●自分の経営体力を超えない(組織の拡大を目指さない)
- その10 ●自分のやりたいことを最優先する



超高齢化社会に必要なことは、ライフプランではなく、ライフワーク(ライフテーマ)。その実現にナノコーポはひとつの有効な手段であると、結びました。

村田裕之氏 プロフィール

わが国のシニアビジネス分野のパイオニアであり、多くの民間企業の新事業開発に参画し、シニア向け事業をプロデュース。また高齢社会研究の第一人者として講演、新聞・雑誌への執筆、海外からの講演依頼も多数。経済産業省「中長期視点に立った日本版イノベーションシステム構築に向けた調査」検討委員会委員など多くの公職も歴任。主な著書に「リタイアモラトリアム」(日本経済新聞出版社)「スマートエイジングという生き方」(扶桑社新書)などがある。

★ 第二部 パネルディスカッション ★ 「ナノコーポビジネスの事例」

続く第二部では、高齢者活躍支援協議会理事である柳沼正秀氏のコーディネートにより、実際にナノコーポを運営されている4名のパネラーにご登壇いただき、パネルディスカッションを実施。主に、それぞれの活動事例を紹介いただきました。



● ITサポート・WEBサイト構築支援・シニアパソコン支援 有限会社ブリッジ 古橋俊夫氏

「事業リスクがなければ継続することが大切」そして「ニーズによって、自分の持っていない技術・分野の開拓もやりがいがある」ことについて、自らのナノコーポ体験を交えて紹介。特に「CMS（コンテンツマネジメントシステム）」を利用した「運営者自らが更新できるWEBサイト構築支援」の詳細を、中小企業のニーズの高さや、マッチングの良さなどとともに事業の詳細を紹介していただきました。

● 愛犬のお散歩屋さん

株式会社JTL 古田弘二氏

定年後、犬の散歩をしている際に、知人から犬の散歩の代行をお願いされたのがきっかけで、起業。以降18年間、一日も休むことなく犬のお散歩屋を運営。ポスター・チラシ配り・ブログなどでの情報発信を精力的に続けた結果、多くのメディアにも取り上げられ、事業として軌道に乗ることができたと説明されました。

年金には手をつけず、現役時代に負けない収入を保つことを目標・張り合いに、自分の老後を楽しもうとする姿勢での仕事への取り組みを紹介していただきました。



● 美容院に行けない方のための訪問美容サービス 訪問美容「と和」 小池由貴子氏

「どんな状況であっても、その人らしく、美しく輝いていてほしい」と願い、「永遠に美しく。そして、人との和を大切に」という想いをこめて名づけてはじめて訪問美容「と和」。美容師になる際に、原因不明の脱毛症に悩まされ美容室に行けなかった祖母からかけられた言葉（「美容室に行きたくてもいけない人のことも忘れないであげてほしい」）が起業のきっかけ。協力してくれる美容師スタッフのモチベーションを保つ努力や、試行錯誤しながら続ける訪問美容サービスの活動を紹介していただきました。



● 中延商店街の活性化と連携した生活便利屋さん

街の生活便利屋さん・街のお助け隊コンシェルジュ 青木弘道氏

まず、現在の高齢者の実情を紹介。技能・特技を持った高齢者たちが社会へPRする場がない問題に触れ、何もしないで生活していると、疾病の危険性が増加し、要介護者や、日常生活の些細な出来事に困る日常生活難民へと移行してしまう。それを食い止めるために、技能のある高齢者を有償ボランティアとして登録してもらい、日常生活難民となった高齢者をサポートをしてもらう事業を展開。

ボランティアの報酬を商店街で使用できる商品券としたことで、高齢化社会への貢献だけでなく、商店街の活性化にも寄与できている取り組みを紹介していただきました。



簡単な質疑応答の後は、本日のシンポジウムを振り返り、高齢者が働くことを通じて「自己実現」と「社会貢献」を生きがいとして感じる重要性を改めて指摘。高齢化社会に向け、高齢者の就労支援に注力していきたいと結び、閉会となりました。

本件に関する
ご意見・お問い合わせ先

シニアセカンドキャリア推進協会 事務局
Eメール info@sscpa-j.org